

# JAIR Newsletter

No. 111 April 2007

日本国際政治学会



[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jair/index\\_j.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jair/index_j.html)

## 日本国際政治学会 51 年目の新たな決意

国分良成

昨年 10 月、日本国際政治学会は創立 50 周年の記念大会を開催した。この大会中に開催された新理事会において、大芝亮前理事長の後任として私が本学会の理事長の大役を仰せつかることとなった。私自身が学会に入会したのは 1981 年、それ以来、本学会とのお付き合いは長く、そして深い。日本にいる限り、大会にはほとんど出席したと記憶している。私は学会のオープンな雰囲気が好きだった。本学会のさらなる魅力をいかに引き出し会員に伝えるか。これが私の任期中に課せられたテーマである。

50 周年を迎えた本学会が次に取り組むべきは、過去の実績を踏まえ、次の 50 年を見据えた新たな創意と工夫を構想し実践することである。私は今後の指針として次の 4 点を提案したいと考えている。

第 1 に 60 周年そして 100 周年へ向けた学会の体制作りである。学会事務センターの破綻による衝撃から本学会はまだ完全には立ち直っていない。新執行部はいま、効率的な新体制の構築に知恵を出し合っている。こうした体制作りには、現状に対する自己点検から始めなくてはならない。そこで自己点検委員会を新設し、学会の学問と体制に関する課題の再点検を試みる。同時に、学会の長期にわたる将来の「夢」作りとして、将来構想委員会も新設する。

第 2 に学会の学問水準を世に問い、今後の国際政治学の方向性を探究・先導していかねばならない。本学会がここまで発展できた最大の理由の一つに、若手中心にオープンな学問的議論を展開し

てきたことがある。こうした良き伝統を維持しつつ、大会企画のさらなる活性化のために、今後新たな仕掛けを考えていく予定である。また、50 年を経た現段階の学会水準を形にしたものとして、本学会独自の企画による『日本の国際政治学』（仮題）全 4 巻を刊行する。すでにこれは理事会で承認され、出版企画の段階に入りつつある。

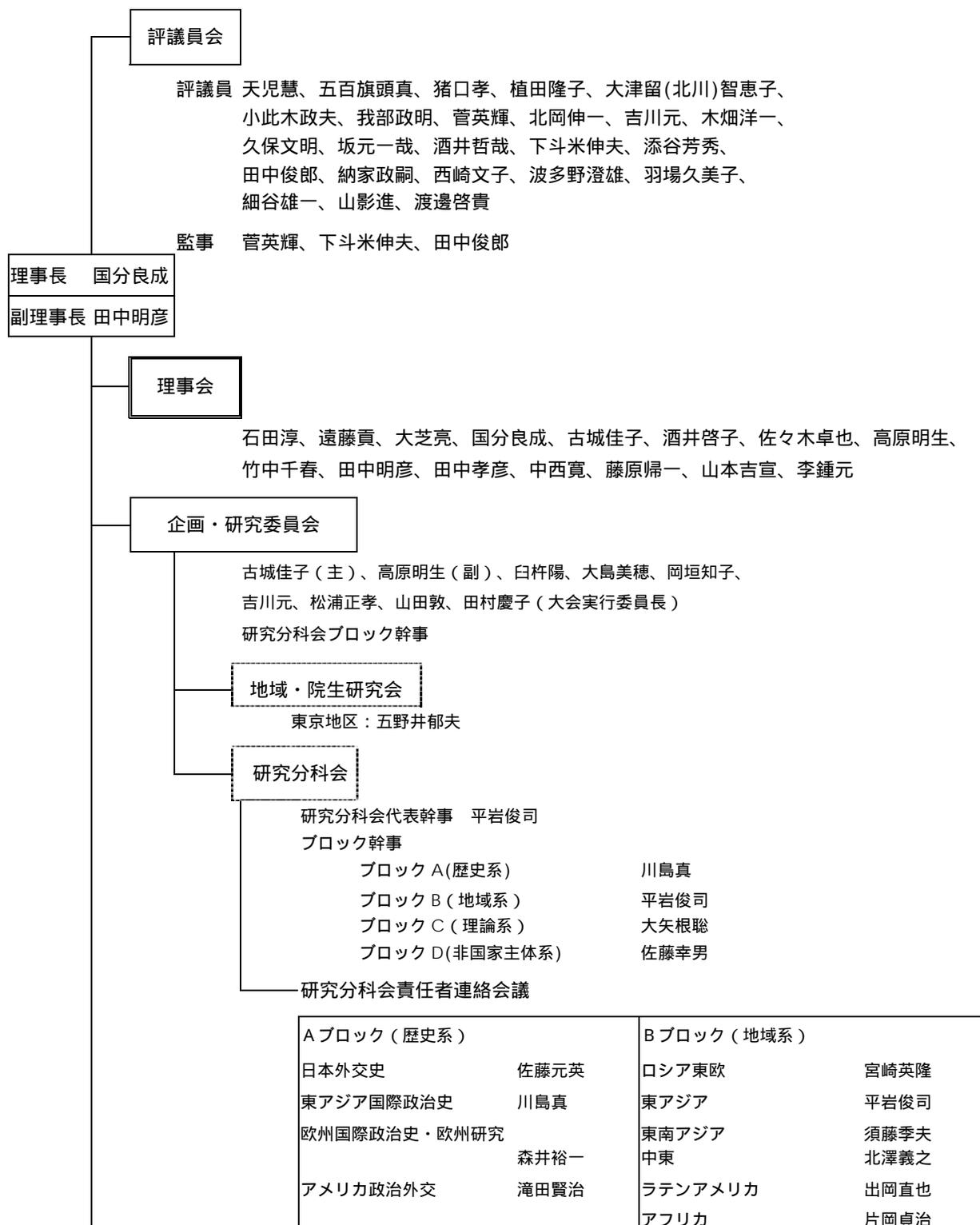
第 3 に会員の研究環境の改善と情報提供の促進である。学会の担い手は若手でなければならない。でなければ学会は衰退する。若手の研究奨励のため学会賞の創設を考える時期に来ている。また本学会には女性の会員が多い。育児に忙しい会員のために、大会期間中会場に託児施設を設置するなどの配慮が必要である。さらに学会の開放性と透明性を確保するため、従来のニューズレター委員会と事務局が担っていたウェブの仕事の合体させて広報委員会とする。

第 4 に一層の国際化の推進である。本学会は国際化に関して近年 I S A、韓国国際政治学会との提携を強化してきた。これらをさらに充実させつつ、その他の地域や国の関連学会との関係を模索する必要もある。加えて、若手の会員を中心に海外の学会で報告することを積極的に奨励・支援する必要がある。経費の一部補助を拡大する措置をはかる。このような観点から、従来の対外交流委員会と国際学術交流委員会を一本化して国際交流委員会とする。

以上を要するに、自らの専門に戻って中国流に言えば、「改革」と「開放」がカギである。

## 学会組織運営図(2006-2008年)

事務局連絡先 〒186-8601 東京都国立市中 2-1 一橋大学磯野研究棟内  
(財)日本国際政治学会 一橋大学事務局



Cブロック（理論系）		Dブロック（非国家主体系）	
理論と方法	飯田敬輔	国際交流	牧田東一
国際統合	児玉昌己	トランスナショナル	鎌田真弓
安全保障	梅本哲也	国連研究	則武輝幸
国際政治経済	大矢根聡	平和研究	佐藤幸男
政策決定	飯倉章	ジェンダー	竹中千春
		環境	太田宏

### 編集委員会

中西寛（主）、遠藤貢（副）、佐道明広（副）、石田淳、吉川元、  
竹中千春、滝田賢治、添谷芳秀、川島真、平岩俊司、  
大矢根聡、佐藤幸男

### 書評小委員会

佐道明広（主）、青木節子、飯田将史、井口治夫、磯崎敦仁、  
後藤春美、庄司真理子、永井史男、中本義彦、服部龍二、森井裕一

### 英文ジャーナル編集委員会

山本吉宣（主）、添谷芳秀（副）、土山実男（副）、石田淳、  
青井千由紀、飯田敬輔、太田宏、菊池努、高木誠一郎

### 広報委員会

酒井啓子（主）、鈴木順子、小林哲

### 国際交流委員会

李鍾元（主）、飯田敬輔（副）、大芝亮（顧問）

### 自己評価委員会

藤原帰一（主）、毛里和子

### 将来構想委員会

田中孝彦（主）、石田淳（副）、土佐弘之、遠藤誠治、遠藤乾、  
伊藤剛、川村陶子、佐々木寛、篠原初枝、コンヨンソク、山田高敬

### 2007年度研究大会（福岡）実行委員長

田村慶子（主）

### 会計部

佐々木卓也（主）、中里淳子

### 事務局

竹中千春（主）、細谷雄一（副）、高松佳代子

---

## 2006-08 年新理事会より：学会事務体制の変更について

---

平素からの学会に対するご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

さて、このたび突然ではございますが、本学会では事務体制全般について注意深く再検討を行いました結果、新しい事務体制に移行することに決定させていただきました。こうした事情につき、ご理解とご協力を賜りますよう、会員の皆様にご報告させていただきます。

かつて事務を委託してまいりました財団法人日本学会事務センターが 2004 年 8 月に倒産して以降、日本国際政治学会では会費納入・名簿記載事項変更・会報の発送等につき、事務局に専任職員を雇用し学会内部で事務処理を行う方法を考え、それを実行に移してまいりました。しかしながら、このたび 2006-2008 年期新執行部への事務の引継ぎを進める過程で、経費等の問題から、従来の事務体制のあり方自体を再び見直さざるをえないと判断するにいたりました。そこで新執行部では、会員へのサービス、経費、効率性等のさまざまな要素を考慮した上で、2007 年 2 月 17 日開催の理事会におきまして、本学会の学会事務を信頼に足る外部の業者に委託するという提案を提出し、承認の運びとなりました。

今後の日程といたしましては、3 月中に新たな業者の選定を行い、新年度からその業者への学会事務委託を本格的に始動させる予定で準備を進めております。また、その過程については、順次、ホームページ、ニューズレターおよび研究大会時の総会などで、ご説明とご報告を行っていきたくと考えています。

今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。

日本国際政治学会理事長 国分良成  
事務局主任 竹中千春

---

---

### JAIR 50 周年記念大会報告

---

---

50 周年記念大会は、「新時代の国際政治 協調と対立」を全体のテーマに、2006 年度研究大会と連携して行われました。基調講演や国際シンポ、記念部会などの記念行事は、主として大会 2 日目の 10 月 14 日に設定されましたが、その他、分科会にも多くの海外ゲストを招聘し、通常大会との融合プログラムという形をとりました。通常の研究大会そのものが国際的な学术交流の場であるべきという趣旨も背景にありました。会員の皆様のご協力とご参加を得て、無事大会を終了したことに、50 周年記念事業委員会を代表して、改めてお礼を申し上げます。合計 34 名に上る各分野の著名な研究者を世界各地から招聘し、充実したプログラムを展開する過程では、多くの方々のご協

力をいただきました。とりわけ、海外ゲストの招聘などで、多大なご尽力をいただいた山本吉宣、伊東孝之、酒井啓子の諸理事に重ねて感謝申し上げます。

おかげさまで、様々なレベルの終焉と変容が語られる現代において、国際政治の理論と現実の交錯を鳥瞰しつつ、日本の国際政治学のあり方を多角的に考える一つの機会を持つことができました。今回の記念大会の成果と教訓を踏まえて、本学会の国際学术交流の更なる充実化を目指していきたいと考えております。今後とも会員の皆様のご協力の程よろしくお願申し上げます。

最後に、50 周年記念事業委員会主任である私の不手際と連絡不備で、記念大会のうち、基調講演と国際シンポの報告のニューズレター掲載が遅れましたことをお詫び申し上げます。関連部分は以下、本号に掲載いたします。

(50 周年記念事業委員会主任 李鍾元)

## 基調講演・国際シンポジウム

研究大会2日目(10月14日)午後、総会に引き続き、創立50周年記念大会の特別企画として、基調講演と国際シンポジウムがかずさアカデミアホールのメインホールで開催された。本大会の全体テーマとしての「新時代の国際政治 協調と対立」をうけて、基調講演は、緒方貞子名誉理事が「グローバル化時代の安全保障」と題するものであった。講演は、日本国際政治学会の歴史と国際政治学の発展を振り返りつつ、これまでの安全保障が国家を中心としてのものであったことを指摘しつつ、現代のグローバル化の時代のもとで、国家中心的な安全保障の取り組みだけでは不十分であることを論じた。とくに緒方名誉理事が国連難民高等弁務官であった経験をベースに、「人間の安全保障」という考え方の生まれる必然性を説き、いまや人々の安全保障を確保することなく、国家自身もまた安全たりえないと論じた。さらに最近の国連を中心として行われている安全保障をめぐる新しい議論を簡潔に紹介され、国家中心のトップダウンの発想から、人々の能力を向上させる面に留意するボトムアップの考え方、現在とりわけ重要な安全保障の課題である内戦への関与のあり方、ここで問題となる内政不干涉原則との関連などの問題に議論を展開された。安全保障に関する新しいパラダイムが現在ほど必要とされている時代はないとの論旨を展開され、今後の国際政治学への課題を提示された。

基調講演に引き続き、「新時代の国際関係 地域からの視点」と題する国際シンポジウムが開催された。パネリストは、Bronislaw Gemerek(欧州議会議員、元ポーランド外相)、韓昇洲(高麗大学名誉教授、元韓国外相)、G. John Ikenberry(プリンストン大学教授)、Kamel Abu Jaber(元ヨルダン外交研究所所長、元ヨルダン外相)ならびに緒方名誉理事であり、田中明彦が司会を行った。討論は、まず緒方名誉理事以外の4名のパネリストから、貴重講演をうけて、それぞれの地域ならびにそれぞれの経験を踏まえて、新時代の国際関係についての問題提起をいただいた。問題は多岐にわたり、すべての論点を紹介することは不可能であるが、大要以下のような論点を各パネリストが提示した。Gemerek教授は、おもにヨーロッパにおける安全保障政策の展開について紹介し、新しい脅威への取り組みやEUと他地域との関連・困難にも触れながら、しかし、政治体制

の変革などによる期待をにじませた問題提起を行った。韓教授は、朝鮮半島における安全保障問題を中心にその困難な課題を語った。研究大会直前の10月5日に北朝鮮が核実験を行ったことを受け、北朝鮮の核開発問題に関する主要国の政策を分析したうえで、アメリカの対応の硬直性の問題点を指摘した。全般的に東アジアにおける国際政治における単独主義・二国間主義や勢力均衡的発想の優越と問題解決の困難さを指摘した。Ikenberry教授は、第2次世界大戦後のアメリカが主導してきたリベラルな国際秩序が、現在、危機に陥っているとの見方を提示した。リベラルな国際レジームは、いまや皆機能不全に近い状態にあり、これを支える主要国とりわけアメリカの意思は弱い。逆説的ではあるが、世界的にはリベラルな反アメリカ主義の傾向も強く、これに対応するアメリカの努力も弱い。ここから抜け出すためのグランドバースが必要であるというのがIkenberry教授の見解である。Jaber所長は、中東における経験をベースに、国際社会という見方に対して、根源的ともいえる疑問を提起した。西欧を中心とするこれまでの中東関与の歴史は、事態を悪くするだけではなかったのか、誰の正義が守られているのか、根本的な反省が求められているとの指摘を行った。4人のパネリストからの問題提起を受け、緒方名誉理事も含めて、討論を進めた。討論の過程で、現代の国際政治における中東と朝鮮半島の二つの地域における古典的ともいいうる安全保障問題が浮かび上がり、そこでのアメリカの役割の決定的重要性が議論されるとともに、問題解決の困難性もまた大きいことが明白となった。他方、冷戦後のヨーロッパで進展してきた肯定的な動きも忘れてはいけないとの論点が示された。シンポジウムの後半では、会場からの質問やコメントも活発に行われた。アメリカの重要性や責任に加えて、困難な地域における地域の国家や人々の役割や責任もまた指摘された。全体として、現代世界における安全保障状況が、緒方名誉理事の指摘するような「新しい概念」による取り組みを必要としていることが示されつつも、地域ごとに問題状況は、古い対立や古い概念も巻き込みつつ存在することが示された。総じて、各パネリストの発言は、自らの経験や各地域の特性を反映した含蓄に富むものが多く、本稿でまとめたような単純な要約におさまらない論点も多かった。(田中明彦)

---

---

## 2007 年度研究大会（福岡）のご案内

---

---

2007 年度研究大会は、10 月 26 日(金)から 28 日(日)まで福岡国際会議場で開催されます。この会議場は、博多港中央埠頭という福岡市の「海の玄関口」に 2003 年に建てられました。会議場 5 階ロビーからは博多湾や玄海灘が一望できます。会議場の対岸には、ベイサイドプレイス博多埠頭という複合施設もあって、夜の眺めも綺麗な場所です。また、日本政治学会（2006 年）などこれまで多くの学術交流会議の会場として利用されてきましたので、会議場のスタッフの方々も優れたノウハウをお持ちです。

現在、研究大会の準備は、北九州市立大学に勤務している 4 人の会員（二宮正人会員、五月女律子会員、下野寿子会員、田村慶子）を中心に進めています。素晴らしい研究大会となりますように 4 人の力を合わせて頑張りますので、多くの会員の方々が福岡大会に足を運んでくださいますようお願いいたします。

(福岡大会実行委員長 田村慶子)



〒812-0032 福岡市博多区石城町 2-1

<http://www.marinemesse.or.jp/kaigi/index.html>

---

---

## 理事会便り

---

---

---

### 編集委員会からのお知らせ

---

編集委員会より会員の皆様へのお願いです。

機関誌『国際政治』は現在、年4号発刊しております。3号は特集号であり、1号は独立論文号となっております。特集論文、独立論文につきまして会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。ご投稿にあたりましては、学会ホームページ掲載の「掲載原稿執筆要領」に沿った体裁、形式をとって頂きますようお願い致します。投稿された論文は同じく学会ホームページ掲載の「独立論文投稿原稿審査内規」に従って審査いたします。

また、会員の皆様をお願いしたいのは、独立論文の査読レフェリーに関してです。独立論文については、その学術的内容を公平かつ客観的に判断して頂くよう査読レフェリーを編集委員会において選定し、査読を依頼しております。レフェリーにつきましては負担をおかけしていますが、査読プロセスは学会の学術的水準の維持向上のため、また、特に国際政治分野における若い研究者の育成のためにきわめて重要な意義を有しています。ご多用の中恐縮に存じますが、査読レフェリーをお願いしました節は、何とぞお引き受け頂けますようお願い致します。

特集号の特集テーマや応募に関する情報は、学会ホームページに掲載し、またニュースレターでご案内しております。ニュースレターは発行回数も限られるため、最新の情報については学会ホームページでお知らせする方向になっておりますので、会員の皆様方には随時ご参照の程をお願いします。

編集委員会に対するご質問等はお気軽に主任・副主任までお問い合わせ下さい。なお、現在の編集委員会の構成は以下のようになっております。

編集委員会（2007年3月現在）

中西 寛（主任）

遠藤 貢（副主任、独立論文担当）

佐道明広（副主任、書評担当）

特集号編集責任者

竹中千春（149号）、滝田賢治（150号）、添谷芳

秀（151号）

分科会ブロック幹事

川島 真（ブロックA）、平岩俊司（ブロックB）、

大矢根聡（ブロックC）、佐藤幸男（ブロックD）

書評小委員会

佐道明広（主任）

青木節子、飯田将史、井口治夫、磯崎敦仁、後藤春美、庄司真理子、永井史男、中本義彦、服部龍二、森井裕一

独立論文投稿宛先

〒153-8902 目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻  
遠藤貢

TEL03-5454-6490 FAX03-5454-4339

endo@waka.c.u-tokyo.ac.jp

編集委員会主任連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学公共政策大学院

中西寛

TEL075-753-3214 FAX075-753-3290

hiroshi@law.kyoto-u.ac.jp

（編集委員会主任 中西寛）

---

### 国際交流委員会からのお知らせ

---

1. 国際交流委員会の新体制

1) 新理事会の体制で、従来の対外交流委員会と国際学术交流基金委員会を統合し、国際交流委員会を設けることになりました。

2) 国際交流委員会は、基本的に従来からの二つの委員会の任務を引き継ぎ、ISA や韓国国際政治学会（KAIS）など海外の学会との交流、国際学术交流基金助成などを担当します。今後、会員の皆様のご協力を頂きつつ、海外学会との交流や共同事業を積極的に検討して行きたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

3) 当面の構成は、以下の通りです。今後、機能の強化に応じて、漸次拡大していく予定です。

主任： 李鍾元（立教大学）

副主任： 飯田敬輔（青山学院大学）

顧問： 大芝亮（一橋大学）

## 2. 国際学術交流基金助成 2006 年度の結果報告

### 1) 2006 年度第 1 回助成： 計 1 名

池田亮（一橋大学、院）： SHAFR（米国、ローレンス） 12 万円。

### 2) 2006 年度第 2 回助成： 計 3 名

市川美南子（東京福祉大学）： ISA（米国、シカゴ） 10 万円。

佐藤史郎（立命館大学、院）： BISA（アイルランド、コーク） 10 万円。

平川幸子（早稲田大学、院）： ISA（米国、シカゴ） 10 万円。

## 3. 2007 年度第 1 回募集のお知らせ

2007 年度第 1 回分の国際学術交流基金助成を、以下の通り公募します。

### 【申請資格】

40 歳前後までの正会員（選考に際しては若手を優先します。また申請年度を含め、継続して 2 年以上会費が納入されていることが必要です）。なお、既に助成を受けた会員、40 歳以上の会員の申請は妨げませんが優先度は低くなります。

### 【助成対象】

原則として申請期限後 1 年以内（第 1 回は 2008 年 5 月まで）に海外で実施予定の学会等において行う研究発表（司会、討論者などは対象となりません）。なお、海外会員が海外（原則として日本や居住地での発表を除く）で行う研究発表の申請も認めます（下線は改正されました）。

### 【申請方法】

- (1) 「申請用紙」と「申請上の注意」は、学会 HP からダウンロードして入手できます。出来ない場合は、(2)の方法にて入手してください。
- (2) あるいは、下記の事務局宛に、80 円切手を貼付した返信用封筒を同封のうえ「申請用紙」の送付を申し出て下さい。
- (3) 「申請用紙」に必要事項を記入し、「申請上の注意」で指示された必要書類（プログラムの写し、旅費の見積もり等：詳細は申請者へ通知）を添付して、期日（必着）までに郵送して下さい。

### 【申請期限・申請先】

- (1) 第 1 回：2007 年 5 月末日

(2) 第 2 回：2007 年 11 月末日

申請先：〒186-8601

国立市中 2-1 一橋大学磯野研究館

日本国際政治学会 一橋大学事務室宛

### 【決定通知と助成金額】

申請締め切りから 2 ヶ月以内に採否を通知する予定です。1 件の助成額は、当該年度の予算、申請額、採用者の数などに拠りますが、概ね訪問地が欧米の場合は 8 万から 12 万、アジアの場合は 4 万から 6 万程度となります。

なお、問い合わせは一橋大学事務局（Tel 042-580-8842 Fax 042-580-8881）まで。

（国際交流委員会主任 李鍾元）

---

## 広報委員会からのお知らせ

---

2007 年より、これまでのニューズレター委員会が改組され、広報委員会となりました。ニューズレターの発行だけでなく、学会ホームページの運営、更新を行っていきます。

ニューズレターは従来どおり、定期的に発行してまいります。大会の案内や理事会、各種委員会からの連絡など、なるべく早く会員に情報を提供すべき事柄につきましては、ウェブでご案内するよういたします。

会員の皆様には、なるべく頻繁にウェブをご確認いただけますよう、お願いいたします。日本国際政治学会の HP アドレスは、以下の通りです。

[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jair/index\\_j.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jair/index_j.html)

ニューズレターでは、若手研究者による活動報告である「研究の最前線」を連載しています。国内外での博士号取得、国際会議報告などを中心に、積極的に投稿をお待ちしています。

投稿は、広報委員会主任 keikosak@tufs.ac.jp まで。

（広報委員会主任 酒井啓子）

---

## 英文ジャーナル編集委員会からのお知らせ

---

英文ジャーナル（International Relations of the Asia-Pacific）も発刊から 7 年目を迎えます。本年か

ら、年 3 回発行することになっております (IRAP は、カレンダーイヤーで動いています)。すでに 7 巻 1 号が皆様のお手元に届いていると思います。本年はあと 2 号です。また、投稿の方式も、従来の方式と並行して (ハードコピー) 電子投稿/査読システムも動き出しました。後者に関しては、IRAP のホームページを参照ください。

IRAP は、アジア太平洋に焦点を当てていますが、国際関係理論にも重点を置いており、ひろい範囲の論文が掲載可能です。号数も増え、総ページ数も増えたので、ふるって投稿をお願いします。

(英文ジャーナル編集委員会主任 山本吉宣)

ラテンアメリカ 出岡直也

アフリカ 片岡貞治

ブロック C  
理論と方法 飯田敬輔

国際統合 児玉昌己

安全保障 梅本哲也

国際政治経済 大矢根聡

政策決定 飯倉章

ブロック D  
国際交流 牧田東一

トランスナショナル 鎌田真弓

国連研究 則武輝幸

平和研究 佐藤幸男

ジェンダー 竹中千春

環境 太田宏

---



---

### 研究分科会責任者についてのお知らせ

---



---

2007 年度の国際政治学会分科会責任者の連絡先は、以下の通りです(2007 年 3 月現在)。変更、訂正がある分科会は、学会事務局までご連絡ください。

(ウェブ掲載に際して連絡先を削除しました。  
広報委員会主任 酒井啓子)

ブロック A  
日本外交史 佐藤元英

東アジア国際政治史 川島真

欧州国際政治史・欧州研究 森井裕一

(分科会代表幹事 平岩俊司)

アメリカ政治外交 滝田賢治

ブロック B  
ロシア東欧 宮崎英隆

東アジア 平岩俊司

東南アジア 須藤季夫

中東 北澤義之

---



---

### 2006 年分科会報告(追加)

---



---

### 国際統合分科会

---

前回のニューズレターで植田隆子会員 (国際基督教大学) の報告要旨が分科会責任者の編集ミスで抜けておりました。植田会員にお詫び申し上げます。

植田隆子会員は、「欧州連合・欧州安全保障防衛政策（ESDP）の危機管理作戦の展開」と題する報告の中で、EUの危機管理作戦の特色として、軍事、非軍事（警察力など）双方の多様な手段を用いている点を指摘した。ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ、コンゴ民主共和国、パレスチナ、イラク、インドネシアのアチェなどでの作戦を紹介し、別途、欧州委員会の下にあるウクライナ＝モルドバ国境管理支援ミッションについて概観した。EUとNATO、国連、OSCEとの関係についても検討し、篠田英朗会員（広島大学）ほか、多数の質問に答えた。

なく、会員の皆様が参加し双方向のコミュニケーションができる場にできればいいなあ、というのが、担当者の気持ちです。

なお、今期からお二人の会員に広報委員になっていただき、ニュースレター編集とウェブの管理をお願いすることにいたしました。

鈴木順子会員と小林哲会員です。強力な助っ人を得て、主任の私も頼もしい限り。会員の皆様のご期待に副えるように、がんばります。

（広報委員会主任 酒井啓子）

---

## 編集後記

---

日本国際政治学会ニュースレター111号をお送りいたします。

理事会の交替とともに、学会の広報体制も一新いたしました。表紙のレイアウトも少し、模様替えしてみました。いかがでしょうか。

さまざまな情報伝達がインターネットを通じて行われるようになった現在、学会もホームページをもっと有効活用しよう、と考えました。これまでニュースレターでの報告、情報伝達を中心に行ってきましたが、今後できるだけウェブで情報を早く、お伝えしたいと思います。もちろん、ニュースレターでの広報も、これまで通り行いますが、ニュースレターの誌面は、できれば会員同士の積極的な情報交換の場にできれば、と考えています。

前ニュースレター委員会主任の羽場会員のご尽力で、これまで若手研究者たちの活動報告を「研究の最前線」という形で連載してきました。今回は、残念ながら投稿がありませんでした。今後の若手会員の積極的な投稿をお待ちしております。

若手の活動報告のみならず、「これは学会会員にぜひ知らせたい」というような情報、報告などがございましたら、それらの記事も積極的に掲載していきたいと思っております。いつも理事会や各種委員会からの報告では



「日本国際政治学会ニュースレターNo.111」

（2007年4月6日発行）

発行人 国分 良成

編集人 酒井 啓子

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学大学院 酒井啓子研究室

印刷所 (株)中西印刷 TEL 075-441-3155